

【2026. 8.10 記事】 山口新聞

JR 山陰線石垣の巨大壁画 彩り取り戻す

下関市豊北町 35 年前の力作、ライオンズクラブ会員や高校生たちが修復

JR 山陰線の線路の石垣をキャンバスに見立てた巨大壁画が山口県下関市豊北町北宇賀の県道沿いにある。35 年前に地元の二見小学校（2014 年度末で廃校）の児童や教職員、保護者、自治会関係者が郷土の名所や祭りをテーマに制作した力作だが、長年の風雨で塗装が剥がれるなど劣化。「このままにしておくのはもったいない」と今夏、地元の豊北ライオンズクラブ（LC、岡村淳司会長、18 人）と下関北高（松本真次校長、106 人）の人たちが修復作業に汗を流した。

「二見校区ふるさと絵巻」と名付けられた壁画は長門二見駅近くの線路の石垣部分に幅 60 メートル、高さ 1・2 メートル～3・8 メートルにわたって描かれている。二見のシンボルの夫婦岩や、若者に担がれて海上を勇壮に進むみこし、伝承に登場する竜、出漁する地元の漁船団に魚の大群と郷土色満載だ。

1991 年に当時の二見小が「学校近くの通学路の側面に当たる場所に絵画を制作することで周辺を明るくしよう」と呼びかけて制作。約 60 人いた全校児童から下絵を募集して構図をまとめ、同年の 7 月から児童をはじめ地区を挙げて壁画用絵の具で色を塗り始め、8 月 26 日に完成させた。

当時は新聞などで取り上げられ、県道沿いとあってドライバーらの目を楽しませてきた。20 年以上前に一度修復されたが、全体的に塗装が剥がれてきたため、豊北 LC が昨年度、認証 50 周年記念事業の一環として再修復を提案。下関北高生の力を借りることにした。

7 月 27 日に作業開始。初日は LC 会員や同高の JRC 部と総合文化部の生徒らが集まり、海の部分からペンキで塗っていった。画面いっぱいに広がる海が特徴の壁画で、豊北の美しい海を表現しようと青色と緑色の配合に工夫を凝らした。

JRC 部の 2 年、福岡煌雅さん（16）は「登校中に壁画を見ていたが、塗装の剥がれが気になっていた。修復に携われてうれしい」。総合文化部部长の 2 年、来見田芽依さん（16）は「でこぼこしているので塗るのが難しい。元々の絵の雰囲気を変えないように気を付ける」と話した。

この日は 35 年前に児童の一人として壁画制作に携わった地元在住の会社役員、井上直行さん（46）の姿も。「あの時も暑い中で友達とはしゃぎながら塗ったことを覚えている。改めてこの絵を知ってもらうきっかけになれば」と期待を寄せた。

延べ約 90 人が作業に当たり、今月 5 日に終了。鮮やかさを取り戻した壁画が夏の日差しに映える。修復を提案した豊北 LC の松田一誠前会長（78）は「念願の壁画再生ができた。この壁画を通して豊北の文化や魅力を発信することで多くの人に町に来てほしい」と喜んだ。